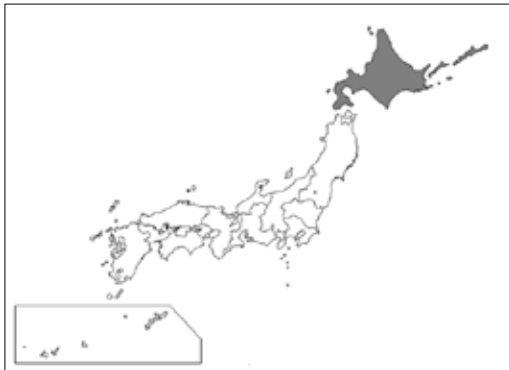


3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は底堅く推移している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

	前回(平成29年8月)	今回(平成29年11月)
景況判断	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	弱さがみられるものの、緩やかな回復基調
鉱工業生産	持ち直しの動き	<u>おおむね横ばい</u>
住宅建設	増加	減少

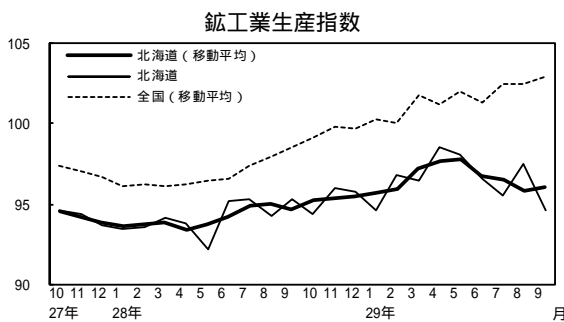
1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は生乳生産、水産物の水揚量ともに前年を下回っている。

7 - 9月期には、生乳生産は総量では976,657tと前年比1.1%減となり、牛乳等向け、乳製品向けともに減少した。水産物の水揚量(主要8港)は、さんま等が減少したため、前年比35.2%減となった。

(2) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

7 - 9月期には、食料品は、不漁の影響により冷凍水産物やその他の水産加工品が減少した。パルプ・紙は、定期修理に備えた在庫積み増し生産により包装用紙等が増加した。電気機械は、無線通信装置が生産体制の見直しの影響等により減少した。鉄鋼は、生産設備の改修工事等により特殊鋼棒鋼が減少した。輸送機械は、自動車駆動伝導装置等が減少した。



(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。
2. 全国及び北海道の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

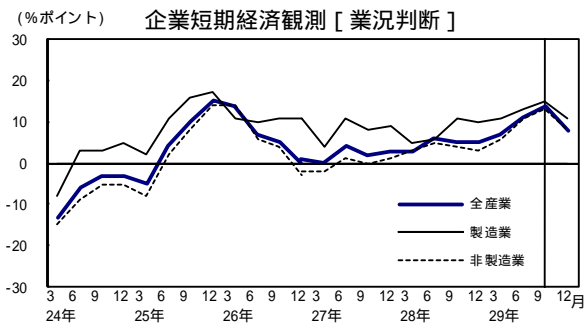
	付加価値 ウェイト	生産				
		4 - 6 月期	7 - 9 月期	7月	8月	9月
食料品	24.2	3.1	3.4	4.0	3.8	2.7
パルプ・紙	11.9	2.6	1.6	2.9	6.7	8.4
電気機械	11.7	0.4	9.6	9.6	8.8	2.3
鉄鋼	7.5	2.7	3.1	5.8	8.0	0.9
輸送機械	7.0	1.5	2.3	5.6	5.2	11.5
鉱工業	100.0	1.8	1.8	1.1	2.1	3.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

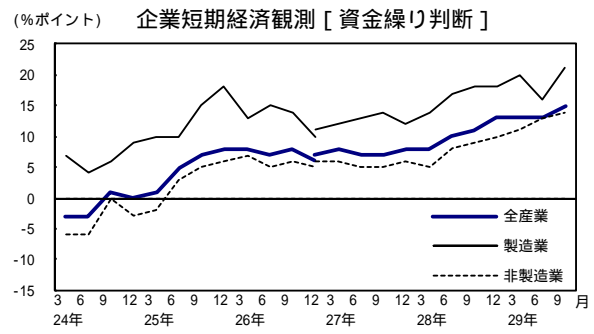
2. 7 - 9月期、9月は速報値。

(3) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ拡大している。

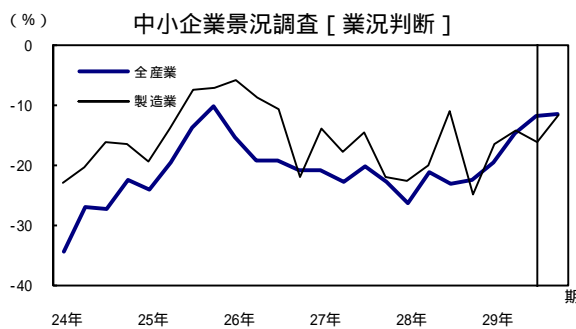
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。29年12月は予測。26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。26年12月は新・旧基準を併記。

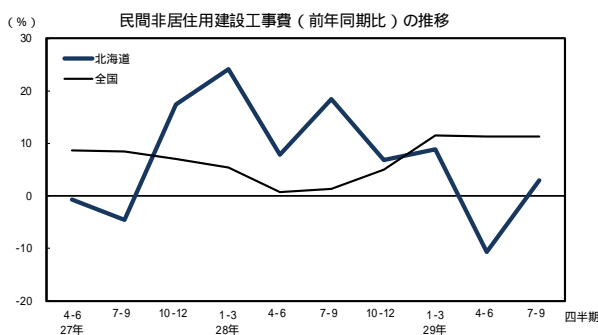


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「農作物関連は、前年の不作の影響により倉庫の在庫もほとんどなかったことから、今秋の収穫が始まった8~10月までの輸送量が少なく、厳しい状態が続いている。また、北海道付近を台風が通過したことで、海上輸送への影響もみられた(輸送業)」などの回答がみられた。

(4) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べて増加している。



(備考)29年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

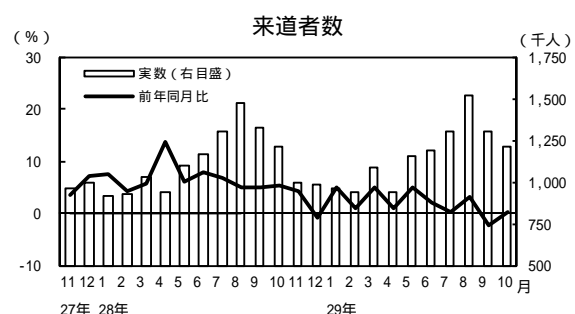
企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

(前年度比、%)

	28年度実績	29年度概
全産業	21.0	23.2(1.1)
製造業	18.6	51.7(1.2)
非製造業	21.9	11.9(1.1)

(備考)1.()は前回(6月)調査比修正率。電気・ガスを除く。
2.リース会社対応ベース。

(5) 観光は増加している。
来道者数は、新幹線効果の反動減がみられたものの増加した。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は底堅く推移している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比2.3%増、8月は同3.0%減、9月は同0.4%減となった。

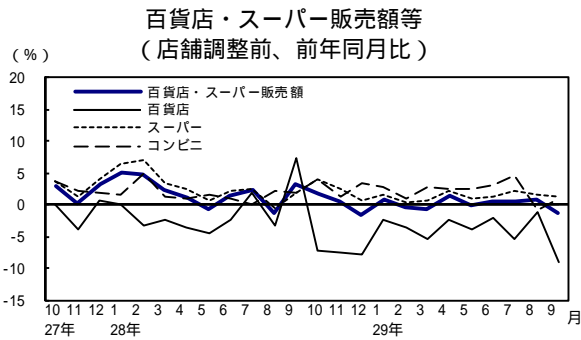
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、7月は、化粧品等のその他は前年を上回ったものの、衣料品、身の回り品、飲食料
品は前年を下回った。8月は、飲食料品、その他は前年を上回ったものの、衣料品、身の回り
品は前年を下回った。9月は、衣料品、身の回り品、飲食料品、その他のすべての品目で前年
を下回った。

スーパーは、7 - 9月期は、主に飲食料品が好調だったこと等から、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (10月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「10月は衆議院選挙があったことで、客の入込がやや少なかった (スナック)」など、「やや悪
くなっている」とする回答が増加した。

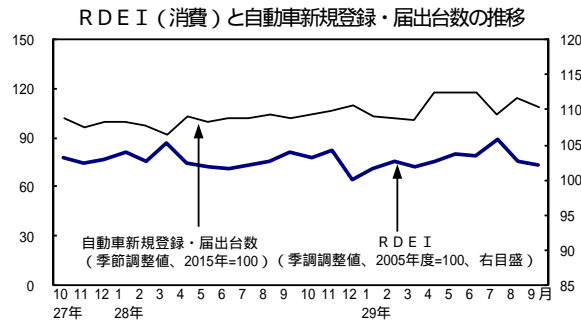


	29年7-9月	29年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.3	2.3	3.0	0.4
百貨店・スーパー(*2)	0.1	0.4	0.9	1.2
百貨店(*2)	5.3	5.5	1.1	8.9
スーパー(*2)	1.6	2.2	1.4	1.1
コンビニ(*2)	1.6	4.7	0.8	0.8
乗用車(*3)	5.0	2.1	8.5	5.4
(季節調整値)(*3)	7.0	11.1	9.8	4.8

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

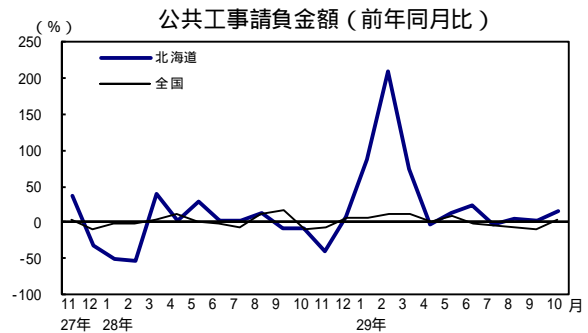
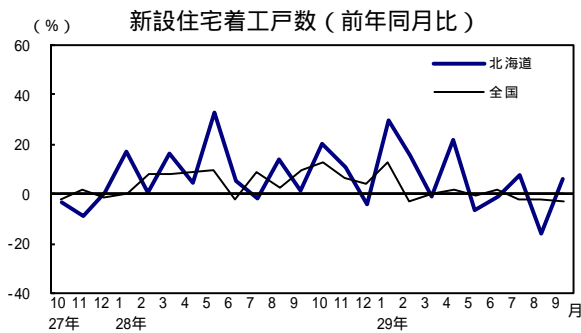
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は前年に比べて減少している。

分譲が前年を上回ったものの、貸家が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は29年度累計で見ると前年度を上回っている。

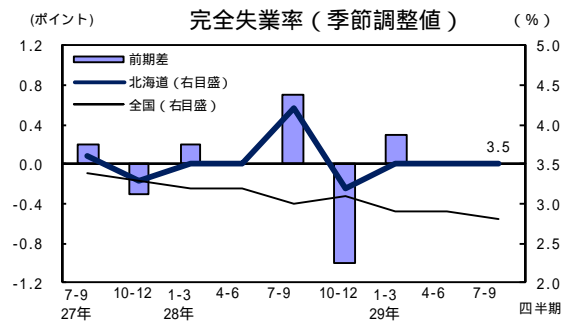
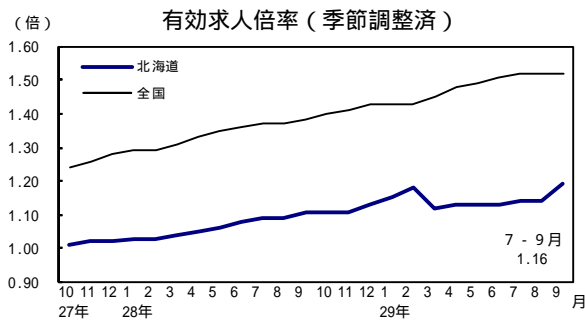


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査 (10月調査結果)[雇用関連 (現状)]

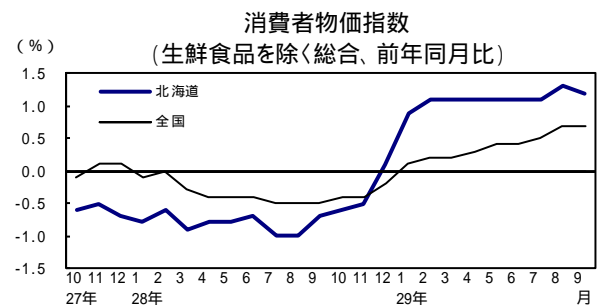
「建設関連の受注が順調である。また、スキーなどの冬季アウトドアシーズンを控えて、宿泊業などにおいて体制を確保するための求人申込の動きがみられる (職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	28年10-12月	29年1-3月	4-6月	7-9月	29年10月
倒産件数	63	79	74	59	20
(前年比)	6.8	16.2	17.5	20.3	9.1
負債総額	70	99	83	138	38
(前年比)	55.0	73.8	23.3	80.3	44.4



景気ウォッチャー調査 (10月調査結果)[合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・定例発売の商材の発売時期がずれ込んだことで、10月は全体的に活気が上がらずに終わった (通信会社)。

<先行き>

- ・ドラッグストアに経営が押されているが、そのドラッグストアも苦戦していると聞く。高齢化、低所得化の影響もあり、零細企業の経営環境は厳しくなっている (その他専門店 [医薬品])。

